

世界中で愛された 「ワーゲンバス」

—— Volkswagen TYPE II / T1 誕生の物語 ——

誕生秘話

1947年、オランダの輸入業者
ベン・ポンが工場内の運搬車から
着想を得て、新しい商用車を
構想しました。

そのアイデアをもとに開発が進み、
1950年3月に生産が開始されます。

広い室内空間と高い実用性を追求し、
ワーゲンバスの原点となる
一台が誕生しました。



歴史年表

1950



T1誕生

ビートルをベースに
開発された、初の
商用車。

1951



世界へ
輸出開始

欧州だけでなく、
世界各国へと
広がり始める。

1955



生産10万台突破

高い実用性が
評価され、
人気モデルへ。

「ワーゲンバス」



世界中で
親しまれる

愛称として定着し、
多くの人々に
愛される存在に。

1967



T2へ
バトンタッチ

T1の思想は
後継モデルへと
受け継がれる。

誕生から70年以上経った現在も、
クラシッカーとして高い人気を誇り、
世界中の愛好家に受け継がれています。

展示車両の紹介

— SPECIFICATIONS —

年式	1966年	全長×全幅×全高	4,260×1,740×1,900 mm
エンジン	空冷水平対向4気筒	ホイールベース	2,400 mm
排気量	1,580 cc	車両重量	1,100 kg
最高出力	54 ps / 4,200 rpm	最大トルク	11.2 kg・m / 2,200 rpm
駆動方式	リアエンジン・リアドライブ	トランスミッション	4速マニュアル
乗車定員	8人	ボディカラー	ツートン（ブルー / ホワイト）

展示車両の特徴

① 11ウィンドウ仕様



11ウィンドウ仕様を採用。
広いガラスエリアが優れた
開放感と視界を実現しています。

② 空冷水平対向4気筒エンジン



空冷水平対向4気筒エンジンを搭載。
高い耐久性と整備性を備え、
長く安心して走れる設計です。

③ 観音開きサイドドア



大きく開く観音開きサイドドアを採用。
乗り降りや荷物の積み降ろしが
しやすく、実用性にも優れています。

④ 分割式フロントガラス



中央で分割されたフロントガラスを採用。
クラシカルな雰囲気演出し、
T1を象徴するデザインです。

⑤ 大型VWエンブレムと フロントデザイン



大型VWエンブレムとV字フロントが特徴。
印象的なフロントフェイスが、
T1らしい存在感を際立たせます。

⑥ 大人数が乗れる広い室内空間



広々とした室内空間を実現。
大人数での乗車や荷物の積載にも、
対応する実用性の高いモデルです。